

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成28年2月4日 (2016.2.4)

【公開番号】特開2014-119673(P2014-119673A)  
 【公開日】平成26年6月30日 (2014.6.30)  
 【年通号数】公開・登録公報2014-034  
 【出願番号】特願2012-276434(P2012-276434)  
 【国際特許分類】

G 0 2 F 1/1337 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 F 1/1337

【手続補正書】

【提出日】平成27年12月10日 (2015.12.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の T F T 基板または対向基板が形成されたマザー基板に配向膜を印刷する配向膜印刷装置であって、

印刷版から前記マザー基板に配向膜を印刷するフレキシソ印刷部と、

前記フレキシソ印刷部の基板投入側に、前記マザー基板の長軸を前記フレキシソ印刷部内の進行方向に対して 0°、90°、180°、270°のいずれかの向きにセッティング可能な第 1 の基板旋回部と、を有していることを特徴とする配向膜印刷装置。

【請求項 2】

配向膜印刷装置は、前記マザー基板を保持する基板保持部を有し、

前記基板保持部は、前記 0°、90°、180°、270°のいずれの向きにセッティングされた場合においても、位置合わせ可能なアライメント機構を有している、ことを特徴とする請求項 1 に記載の配向膜印刷装置。

【請求項 3】

前記印刷を終わった前記マザー基板の長軸を、前記進行方向に対して 0°、90°、180°、270°のいずれかの向きに旋回可能な第 2 の基板旋回部を有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の配向膜印刷装置。

【請求項 4】

配向膜を有する T F T 基板と、配向膜を有する対向基板と、前記 T F T 基板と前記対向基板との間に液晶層が挟持された液晶表示装置の製造方法であって、

前記 T F T 基板と前記対向基板とが重なった部分に表示領域が形成され、前記 T F T 基板が前記対向基板と重なっていない部分に端子部が形成され、

前記端子部側の前記表示領域の辺から前記対向基板の辺までの距離 d 2 は、前記端子部が形成されていない辺における前記表示領域の辺から前記対向基板の辺までの距離 d 1 よりも大きく、

前記 T F T 基板または前記対向基板の前記配向膜は、印刷版から配向膜材料を T F T 基板に転写するフレキシソ印刷によって形成され、

前記配向膜において、前記印刷版が前記 T F T 基板または前記対向基板に先に接する側を印刷入側とし、前記印刷版が前記 T F T 基板または前記対向基板から離れる側を印刷出側とした場合、

前記配向膜における前記端子部側の辺は、前記印刷出側側の辺と一致させることを特徴とする液晶表示装置の製造方法。

【請求項 5】

前記端子部側の前記表示領域の辺から前記配向膜の辺までの距離  $s_2$  は、前記端子部が形成されていない辺における前記表示領域の辺から前記配向膜の辺までの距離  $s_1$  よりも大きく設定することを特徴とする請求項 4 に記載の液晶表示装置の製造方法。

【請求項 6】

前記 TFT 基板または前記対向基板は、マザー基板に複数形成されていることを特徴とする請求項 4 又は 5 に記載の液晶表示装置の製造方法。